

その先の未来へ

鶴雅グループ
株式会社 阿寒グランドホテル
代表取締役社長
大西 雅之



鶴

雅グループは、本年おかげさまで60周年を迎えることとなりました。この記念すべき年を刻すことができたのは、ひとえに、鶴雅のファンになってくださったお客さま、先代以来惜しみないご支援を賜ってきた皆さま、ともに厳しい時代を頑張ってきた社員、スタッフの皆さん、じつに多くの方々の存在があればこそ、この誌面を借りて心よりお礼を申し上げます。さらには、先代の教え、家族の励ましが、日々どれほどの力を与えてくれたかを思うとき、改めて深い感謝と敬意を捧げたいと思います。

会社創立の年に生まれた私も同様に60歳、ともに還暦を迎えました。父の大西正昭先代社長から引き継いだ会社は60年ですが、じつは旅館業としては曾祖母の時代からかぞえて私は4代目に当たり、大西家の家業はほぼ100年の歴史を刻んできたこととなります。先人たちの築いた歴史と伝統の上に今日の私たちがあることを忘れることはできません。これまで家業としてやってきたように、これからもひとつの家族のように、鶴雅グループを未来へと受け継ぐことが私に課せられた役割です。父

からバトンを受けて、また次の代にバトンタッチをする準備に入る、そのきっかけになる60周年でもあると考えております。

1989年に父が亡くなり、私は33歳で社長に就任しましたが、阿寒グランドホテルはその2年前に大手旅行代理店から送客停止の通告を受ける危機的な状況にありました。時代は団体周遊型観光から個人滞在型観光の時代へと移りつつありました。私にとつての幸運は、1993年に量から質への転換を図った鶴雅別館の工事をやらせてもらったことでした。それはやがて「JTB2001年サービス最優秀旅館ホテル」受賞という形で実を結びました。

2000年の航空法改正によって阿寒湖温泉および東北海道エリアの観光は大きな打撃を受けますが、鶴雅グループはこれに対応して支笏湖温泉、定山溪温泉、ニセコ昆布温泉と道央地域にも積極的にドメインを広げました。私たちは順風であり、逆風であり、つねに変化を恐れず歩んできました。

昨年は阿寒国立公園80周年、今年度は北海道新幹線の開業、外国人観光客の増

大など、いままた北海道観光全体への大きな変化の波が押し寄せています。厳しさを増す競争の中で、つねに立ち返るのは鶴雅の経営理念である「郷土力を磨いて、地域とともに100年ブランドをつくり上げる」こと。そのための経営指針の二つが、競争しないでもやっていける個性とクオリティを持つことです。そして、チームワークがうまく働く仕組みの中で顧客満足を考え、つねに社会に必要とされる企業をめざしてまいります。創業60年、家業100年へ。そして、これからの先の70年、100年へ。

鶴雅グループはどこへ進出しようとも、原点はここ阿寒にあります。ここには、インバウンドを含めた長期滞在型観光時代にふさわしい世界に誇れるたくさんの宝物がまだ眠っています。私のふるさとである阿寒を、北海道を、世界に通用するリゾートとして皆さまと共につくり上げていくことが、これからのライフワークだと思っております。

最後に、60周年にあたり多くの皆さまからお祝いと励ましのお言葉を賜りました。心から感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。